

消費者物価指数(CPI)について

平成28年9月16日

総務省統計局統計調査部

消費統計課物価統計室

消費者物価指数(CPI)の概要

【指数の概要】

- 全国の世帯が購入する財及びサービスの価格変動を総合的に時系列的に測定
→家計の消費構造を一定のものに固定し、これに要する費用が物価の変動によりどう変化するかを指数値で示したもの

【指数の計算方法】

- 品目ごとに基準年の価格に対する比較時点の価格の比率を求めて指数化
- 各品目の指数を各品目のウエイトで加重平均して総合指数等を算出

【指数の原データ】

- 価格:原則として「小売物価統計調査」の結果を使用
- ウエイト:原則として「家計調査」の結果を使用

【指数の現行基準】

- 指数の基準年(指数=100)及びウエイトの参照年は2015年
- 品目は家計消費支出上の重要度等を踏まえ、585品目を選定

【指数作成上の取組】

- 調査対象の品質を一定に保つため、調査対象変更時には品質調整を適切に実施
- パソコンやデジタルカメラにおいてはPOSデータを用いたヘドニック指数を作成

消費者物価指数 2015年基準改定について

消費者物価指数は、5年ごとに基準改定を行い、西暦年数の末尾が0又は5である年に基準年を更新。

【基準改定の主な内容】

① 指数の基準時の更新

指数の基準時(指数を100とする年次)を2010年から2015年に更新

② ウェイトの更新

家計調査等の結果に基づき、ウェイトを2015年平均に更新

③ 品目の改定

家計消費支出上の重要度を踏まえ、採用品目を入れ替え
コンビニのコーヒーなど33品目を追加
ETC車載器など32品目を廃止 ⇒ 品目数は585品目に

④ モデル式の改定

モデル式内のウェイト等の更新、採用する価格・モデル等の見直し

2015年基準改定の主な結果

2016年の1月から6月までの前年同月比の新旧基準の差は、「総合」及び「生鮮食品を除く総合」では、0.1ポイント以内にとどまる。

(参考)前回の基準改定では、新旧基準差は-0.5ポイント~-0.8ポイント。

新旧基準の前年同月比(%)の比較

2016年	総合			生鮮食品を除く総合			食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合		
	2010年基準	2015年基準	差	2010年基準	2015年基準	差	2010年基準	2015年基準	差
1月	0.0	▲0.1	-0.1	0.0	▲0.1	-0.1	0.7	0.6	-0.1
2月	0.3	0.2	-0.1	0.0	0.0	0.0	0.8	0.6	-0.2
3月	▲0.1	0.0	+0.1	▲0.3	▲0.3	0.0	0.7	0.6	-0.1
4月	▲0.3	▲0.3	0.0	▲0.3	▲0.4	-0.1	0.7	0.5	-0.2
5月	▲0.4	▲0.5	-0.1	▲0.4	▲0.4	0.0	0.6	0.5	-0.1
6月	▲0.4	▲0.4	0.0	▲0.5	▲0.4	+0.1	0.4	0.5	+0.1